

TTC DSL 専門委員会スペクトル管理サブワーキンググループ

日付：2004年3月26日

提出元：イー・アクセス株式会社¹

題名：第8回SWG確認事項（検討事項）の整理

第8回SWGにおいて整理された第3版に向けての検討事項について、懸案中になっている上り拡張システムの早期決着を目指して、以下のようにまとめた。

1. 基本方針

(1) サービススペックに関する事項を課題とするか

(2) 上り拡張方式のほかに、長延化方式、1.1MHzを超える周波数を使う方式、リモートターミナルでのDSL方式を扱うか、検討する順番

(3) 保護システム（クラス分け）の見直し

(4) 総量規制、収容制限のみに限定すべき等の考え方

2. 保護判定基準の見直し

(1) ISDNを適合性確認の干渉源から排除したい

(2) 距離3.5km(0.4mmPE絶縁)で4Mbps(下り)、400Kbps(上り)を確保したい

(3) 緩和値(マージン)の設定

(4) 保護マスクの導入の是非

(5) 第2版通りの運用をすべき。見直しする合理的な理由がない

3. 線路モデル、干渉源、計算方法の変更

(1) 線路長(損失)の定義および各式の整合性 B章を検討するアドホック会合で議論

(2) 干渉源の数

(3) 2.7km超線路長でのISDNの扱い

(4) 長延化方式用モデルおよび適用距離

(5) 漏話の周波数特性が正しくない B章を検討するアドホック会合で議論

(6) キャリアビット数[8、15、その他]

(7) 第2版通りのモデルで十分。モデル変更する合理的な理由がない

¹ イー・アクセス株式会社

小畑 至弘 obata@eaccess.net 阿部 基成 abe@eaccess.net 藤田 敬史 keishi@eaccess.net 大橋 功 iohashi@eaccess.net

【項目整理表】

	“答申”の考え方 に従う(:従う、 x :従わない)	技術的な疑義に基づ く(:基づく、 x : 基づかない)	上り拡張システムの確 認に影響する(:影響 する、 x :影響しない)	当社の考え方
1	(1)		x	特定のサービス及び事業が、他のサービス及び事業に優先するかのよ うな議論は、本SWG含めTTCでおこなうべきでない
	(2)		x	引き続き課題として検討することで合意
	(3)	x	x	理由/メリットが明確ではなく見直す必要性はない
	(4)	x	x	理由/メリットが明確ではなく見直す必要性はない
2	(1)	x	x	理由/メリットが明確ではなく見直す必要性はない また、現行 1000 万弱存在する I S D N 加入者を含めないことは現実 にそぐわず合理的でない
	(2)	x	x	特定のサービス及び事業が、他のサービス及び事業に優先するかのよ うな議論は、本SWG含めTTCでおこなうべきでない
	(3)		x	現行伝送性能保護基準値に対する緩和値の設定であれば、下り OL の 確認の際の前例に従って検討すれば良い
	(4)	x	x	絶対的な数値を設定すれば、新規の技術及びサービスが認められる可 能性がなく反対する
	(5)			課題としてコンセンサスがとれた項目については継続協議
3	(1)	B章アドホック会合で解決済み		
	(2)	B章アドホック会合で解決済み		
	(3)			NTTから明確にすれば良い
	(4)	B章アドホック会合で解決済み		
	(5)	B章アドホック会合で解決済み		
	(6)	x	x	スペクトル管理標準は、相対的な比較に基づいて、スペクトル適合性

				を判断すべく作成されているもので、その前提のもとでは見直す必要性はない
(7)				課題としてコンセンサスがとれた項目については継続協議

【結論】

上表にまとめたとおり、上り拡張システムに関しては、JJ100.01（第2版）を適用できないとする見直し項目は提示されていない。

よって、上り拡張システムは、JJ100.01（第2版）で確認されたスペクトル適合性に基づいた結論を早急に出すべきである。

なお、第3版にむけて課題とするSWGのコンセンサスがあった項目については、引き続き検討していきたい。

以上